

e-ビーフNEWS 北の牧場から

September 2014

収穫の秋じゃあ

十勝帯広は、お盆を過ぎてから一段と気温が落ちて、朝などは10℃台に突入。先日は12℃。さぶ~いと言うか、秋の青空の朝で気持ちがいい感じですね。昔はよく、盆を過ぎるとストーブをつけたと言う習慣が思い出してきました。最近の北海道も残暑が起こり9月に入っても25℃超えもあつたりしたものですから忘れていました。

さて、畑は収穫で真っ盛り。最初はスイートコーン…茶色に変わったもじゃもじゃの毛から黄緑の薄皮をむくと中から黄色のコーンの粒粒が顔を出します。今年は満作ですね。粒がぎっしりです。次はじゃがいもです。大きく盛った畝を、勢いよく手で跳ねると大粒のいもがザクザク。不思議ですね。連休前の半分に切った種イモからこんなにイモがたくさんできるなんて…それから、まめ。黒大豆の枝豆は、昔の豆の味がしました。すべての作物が出来上がっちゃいました。以上、十勝に帰国した家庭菜園1年目の感想です。残念ながらまだ皆様にはお分けするまでの収穫と品質でないことは断っておきますね。

北海道は、これから雪が降る11月までは、一番忙しい季節。農家をはじめ、それに関わる流通加工業者は、仕込みに入ります。



NEWSばか読み

- 日本マック 販売15%減 期限切れ肉問題で
7/30:100円マックの限界か
- いなげや中堅食品スーパー増益 高単価商品好調7/30:真逆
- 十勝産塩づくり始動 7/30:食品数自給率100%、独立を目指しています
- 空き家比率13.5%と最高 7/30:シャッター街と空洞化日本
- 米国産牛肉バラ肉一段高50%アップ 7/31:吉野家牛丼危うし
- 北電 再値上げ申請 8/1:電気自由化 自給化で独占打破
- 農水省 コメ在庫高水準 需要800t割れ 8/1:最近の米おいしいけど
- 豚肉出荷頭数減10月88% 8/2:PEDウイルス怖いね
- 生乳生産9月逼迫の恐れ 内地暑熱影響 8/4:道外酪農夏対策深刻
- 政府 ハラル食品に実態調査
8/5:イスラム圏お坊さん紹介するよ
- 政府 輸出にメイドインジャパン証明交付 8/6:一生懸命だね
- 農水省 自給率4年連続39%維持
8/6:安心して居る場合か、何もしていないと同じ
- ゼンショー 初の赤字 8/7:人件費の重み

- 世界の食糧貿易活発 ブラジルの穀倉地帯争奪戦
8/7:中国の民の為に頑張っているね
- 三井物産 ブラジル最大手穀物商社と合併事業 8/12:
- 豪州牛肉卸値1割高 不足の米国が購買強化
8/12:食糧サイクル 廻り回って
- 乳業協会 乳製品の大規模輸入要請
8/13:乳製品の自由化に道が広がるよ
- カット野菜拡大 シニア層に浸透
8/13:生鮮品が原体でなく製品に 重要な流れ
- 中国産食材の切り替え進む 東南アジアへ 8/14:アジア全体に分散評価
- ユーロ圏 ゼロ成長 ウクライナ制裁が影響 8/15:ロシアと喧嘩できない
- エボラ出血熱拡大の基調
8/15:金の生まないところの防疫薄が表面化
- 鶏卵 Sサイズに人気 相場形成に 8/16:基準が基準でなく変化する
- JA集可能性が低下50%割る
8/19:食料品流通の変化着実 JAも変わらんと
- 100円ショップ 店舗拡張基調続く
8/19:利用させていただいております
- 明治 高齢者向け食品販売拡大 8/20:高齢者の低栄養状態深刻

東京直近NEWS (8/28 Sh-REPORT)

ホルス

8月盆休み前後も相場は下げ傾向。
大阪南港市場も700台後半から800前半まで。
正肉販売状況も引合い弱く、夏休みと各地の雨被害からBBQ需要も低迷影響も大きい。
赤身のスソものは余剰傾向、焼き材部位も評価上からず枝相場以上に正肉の流通単価が弱い。
9月に向けて、給食の再開と気温の低下に伴い、スライス材の引合いに期待したいが各社在庫も十分な状況から前半は荷動き鈍いか。
輸入品コスト上昇と国産志向見直しに国産需要期待。

経産牛

相場は相変わらず高値継続。
盆休みに本州相場やや落ち込むも休み明けからは相場戻り傾向。
暫時値上げ継続から牛正肉・パーツともに販売は値上げ疲れの様子。
価格は天井状態も、数量の先行き不安感もあり加工スジでは数量手当てし在庫確保行っている模様。
メーカー側の在庫逼迫は変わらず枝相場は当面冷めない予測。
輸入牛正肉も急激にコストアップしており、数量手当ても先行き不透明状況からコストパフォーマンスある商材が皆無で、末端も特売打てず販売の舵を切れない。

活動のお知らせ

- 9/19(金) カルビーポテト(帯広工場)ポテトピール第4回検討会を行います。
ポテトピール脱水処理加工を実証実験で検討。当日、シンポジウム実行委員会・理事会開催を予定します。
- 10/17(金) 13:00~とかちプラザ
環境循環型肉牛生産シンポジウム開催します。ぜひ参加予定を。
当日、10:00から畜産公にて北海道肉専用種枝肉共励会が開催されます。

左先生の畜産学研究NEWS

新聞の言ってきたエルニーニョ現象は今のところ北海道の農業生産者にそれほどの影響を及ぼしてはいません。自然が何時襲い来るかも知れませんが8月5日に米国で再開されたTPP協議の行方は農業だけでなく医療、労働および環境等について広く日本に重大な影響があります。農業者の関心事は農産物の関税ですが、牛肉を含めて果実等の農産物輸出に打って出ようとする一部の例をコスト的に限定的なものとせず、如何に拡大させるかでしょう、今後の課題は多いのです。環リ協のe-びーふ認証制度の発想は飼料資源の有効活用以上に様々な角度から多くの組織が取組んでいます。恐らく今後は牛肉の質について生産の付加価値を付けようとするEU諸国(スウェーデン、オランダ、フランス、イギリス)のWelfare Quality(WQ)を意識した活動が展開すると思います。

そこで今回は前月に続いて畜産技術協会の「AW(Animal welfare)の向上を目指して」という資料を調べます。動物福祉の定義は前述のごとく一応「5つの自由」で知られています。これらの5つの自由を保證することが家畜福祉の精神に副った飼養管理です。肉牛生産者の多くは既にこれらを実践していることも多いでしょう。これはいつの間にか付加

価値を強調できる認証制度とされているGAP(Good Agricultural Practice)や農場版HACCPと同様に思われそうですが、本質は日常飼養管理の指針で、少し科学的説明がなされてその必要性を強調しています。善良な気持ちで肉牛に接していれば特に難しいことはありません。肉用牛のAW達成のためには、餌・水、物理環境、苦痛・傷害・病気、正常行動、恐怖の有無について配慮すべきで、これらを動物や施設・管理などから評価します。まず肉用牛を健康に飼養する上での防疫措置と動物衛生管理が基本事項です。病原体発生源の抑制。BSC等栄養状態、体の汚れ、外皮の変成、蹄の管理なども必要です。更にそれらを支える環境(温度環境、照明、空気の質、騒音、給水、飼育密度、野生生物からの保護)・管理(難産防止、初・離乳管理)を点検して行きます。これらの項目の詳細は「アニマルウェルフェアの考え方に対応した肉用牛の飼養管理指針」としてh23.3に畜産技術協会から公表されています。このような資料を有効活用し、家畜の観察と取り扱いについて人材育成の観点から飼養管理者・従事者全員による学習などを通して肉牛の行動習性・異常行動について共通の認識に立ち家畜への快適空間の確保を図り、WQの高い肉牛生産で成績を上げることが期待しています。

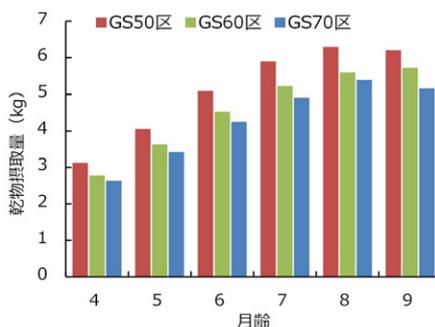
道総研 畜産試験場NEWS 3回シリーズ

GSの給与割合の影響

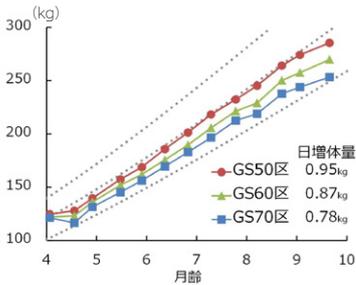
		GS50区 (対照区)	GS60区 (試験区①)	GS70区 (試験区②)
粗濃比		50:50	60:40	70:30
混合割合(%)	GS	50	60	70
	育成用配合飼料	36	33	30
	庄へんとうもろこし	14	7	—

飼料中のCP含量が16%になるように設定

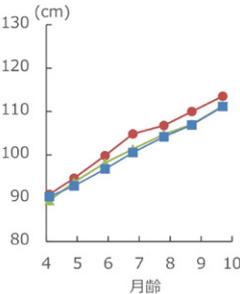
摂取量



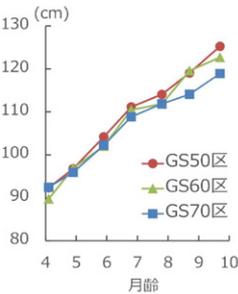
体重



体高



体長



GSを70%まで高めると

NDF割合の増加により
摂取量の低下
CP・TDN摂取量が低下し
増体量が低下

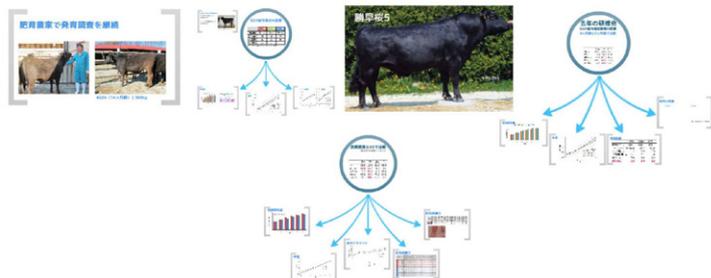


肥育農家で 発育調査を継続

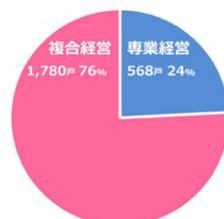


GSはどうやって 手に入れる？

グラスサイレージ給与による
黒毛和種去勢牛の育成肥育II



道内の繁殖農家 (H24)



北海道農政部畜産振興課調べ

黒毛和種の生産者も TMRセンターを活用

